

事例:18「丈夫なペットボトルの船を作ろう」 5歳児(7月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え
⑥思考力の芽生え⑨言葉による伝え合い

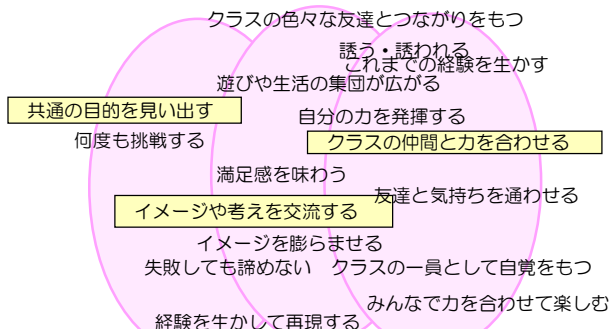
これまでの姿

「プールで使う船作りたい！」との声があり、クラス全員でペットボトルの船作りをすることになった。クラスで話し合っ立体的な船を完成させるが、プールで使うとすぐに壊れてしまった。今度はペットボトルを一列に寝かせ、隣り合うペットボトル同士を布ガムテープで貼り合わせて完成させるが、それも壊れてしまった。

◎ねらい◎内容

- ◎友達とイメージや考えを伝え合いながら、作りたいものを形にしていくことを楽しむ。
- どうすれば丈夫な船ができるか考え、意見を言い合ったり友達の意見を聞いたりしながら作り方を決める。
- 工夫したり、試したり、友達と協力したりしながら製作をする。

架け橋期のカリキュラムとの関連 (遊びの中で経験させたいプロセス)



探究することを楽しむ



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

どうやったら丈夫な船を作ることができるかそれぞれが思い思いに考えを言い合っているときに、A児が⑥⑨「全体をぐるっと貼ったらいいがよ！」と気付いた。それを聞いた保育者が、他児にも聞こえるように「全体をぐるっと？(ってどういうこと?)」と聞き返す。そのやりとりでどうすればよいか気付いたB児と共に、A児はまだ理解ができていない友達に、⑨説明を交えながらどういうことか実演して見せた。「そういうことね！」と他の子どもも気付いた。全体をまとめて貼るには長いガムテープが必要と考え、C児は②③友達にガムテープの先を持ってもらい、自分はガムテープの本体を後ろへ後ろへ引っ張ることで、ガムテープが長くちぎれるようにしていた。そして長くちぎったガムテープを何重にも巻き付け、⑨「次は反対側もやろう！」とA児が提案するも、まだまだ表側を貼るのをやめない友達(年中児)もあり、「速く！」と急がせた。「まだここ貼ってないがやもん！」と言われたことで、A児は④「じゃあここ貼ったらね！」と今すぐ船を裏返したい気持ちをぐっところえる。友達もA児が待ってくれているので急いで貼る。貼り終えたら何人かで一緒に大きな船を裏返し、また貼り進めていく。そうしてついに船ができあがり、さっそくプールに浮かべてみる。②何人でも乗っても船は壊れることなく、みんなで繰り返し遊んでいた。

★環境の構成

○保育者の関わり

★製作を十分楽しめるスペースや時間を確保し、乾かして水気を切ったペットボトルの船とガムテープを準備しておく。



○保育者も話し合いの輪に参加し、一人一人の考えを聞きながら、その考えを他児も聞くことができるようにしていく。

○できるだけ子どもの力で製作を進められるよう見守り、困ったときにどうすればよいか一緒に考えたり、仲立ちとなっていったりする。

「丈夫なペットボトルの船を作ろう」活動のプロセス

共通したイメージの実現

○製作の様子を見守り、どうすればよいか一緒に考えたり仲立ちとなったりする。

共通したイメージをもち、製作に取り組む

○友達の考えを聞き、理解できるきっかけを作る。

どうすれば丈夫な船ができるか考え、友達と意見を言い合う

★十分な時間とスペースを確保しておく。

★必要になりそうな素材や布ガムテープを準備する。



遊びや学びのプロセス(10の姿)

⑨言葉による伝え合い

自分が考えたことを相手にも分かるように伝えようしたり、友達の考えを聞こうとしたりし、相手の状況に応じて言葉を発している。



⑥思考力の芽生え

これまでの作り方だと壊れてしまうことに気付く、どうすれば丈夫な船になるかを進んで考えている。また、他児の意見を聞いて自分の考えをよりよいものにしてしようとしている。

②自立心

友達と船を丈夫にするために工夫し、諦めずにやり遂げ、出来上がった船に乗ることで達成感を味わう。

③協同性

ガムテープを長く切るために友達と一緒にちぎったり、裏側も貼るために友達と一緒に船を裏返したりすることで協同して活動する充実感を味わう。

④道徳性・規範意識の芽生え

今すぐ船の裏側を貼りたい気持ちを抑え、まだ表側を貼っている友達のことを待ったり、まだまだ表側を貼りたいが、裏側を貼りたい友達の為に自分の作業を急いだり切り上げたりする。他児の気持ちを考えながら行動するようになる。

小学校教員の気付き

◆幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を調整する力が育っていますね。こうして遊びの中で自己調整力や折り合いをつける力が育まれているのですね。

◆友達とのやり取りを通して、相手の気持ちに気付いたり、取り入れたりすることで、コミュニケーション力や自分の気持ちに折り合いをつける力を育んでいますね。子ども達同士のやり取りを具体的に伝えながら発信することで、保護者にも伝わると感じました。

保護者への発信ポイント

◆ペットボトルの船を作るという共通の目的に向かって「どうしたら丈夫な船になるのか」、考えを出し合う中で友達の考えや思いを受け止め、折り合いをつけることを繰り返しています。皆で作ることで工夫したり協力したりする楽しさや充実感を味わっています。できるまで何度でも挑戦していく姿に、あきらめない力(根気強さ)が培われています。また、クラス全体で作成(活動)しているので、小集団では味わえない集団での遊びや楽しさにもつながっています。



◆幼児期に育まれた自立心は、自分で考えて意見を言ったり、粘り強く取り組んだりする力につながります。